

グローバルウォータ・ ジャパン代表 吉村和就氏が講演

大分政経懇話会5月例会



吉村氏(右上)の講演を聞く会員ら=30日

大分政経懇話会5月例会が30日、別府市のホテル白菊であり、グローバルウォータ・ジャパン代表の吉村和就氏が「水ビジネス10兆円 水市場の攻防」と題して講演した。

福島第一原発の事故に触れ、「原発の基本は循環する水。水がなければ成り立たない」と説明。「大地震と大

津波は天災だが、全電源喪失や初期対応の失敗は人災。今後の汚染水処理と東北での新たな水インフラ整備が大切なと力を込めた。水ビジネスは既に国際競

争が始まっており、日本の水道インフラの現状について「漏水防止や微量分析など、世界に誇る技術がありながら売り込み方が弱い。現地ニーズの把握に加え、国、地方自治体の支援などが不可欠」と指摘した。

大分県に関しては「地元の水資源をあらためて見直して、大分の活性化に生かしてほしい」と呼び掛けた。

吉村氏は1948年、秋田県生まれ。秋田大を卒業後、荏原インフィルコ入社。98年に国連ニューヨーク本部・経済社会局・環境審議官に就任。05年に水ビジネスのコンサルティングなどを行う「グローバルウォータ・ジャパン」を設立した。国連テクニカルアドバイザーも務めている。

中津会場は31日正午からグランプラザ中津ホテルで開かれる。(講演要旨は6月1日付朝刊に掲載)